

次の諸点を考慮する必要がある。

(i) 反応が陽性(青または青紫呈色)なるためには色素のみならず、次の塩類も触媒的に働き、陽性となり得る。

(a) Ferri-chloride,  $\text{CoCl}_2$ ,  $\text{KMnO}_4$ ,  $\text{AgNO}_3$ ,  
Ferro-chloride, K-chromate, K-bichromate,  
AlumenFerricum,  $\text{CuSO}_4$ ,  $\text{CuCl}$ ,  $\text{KCNS}$ ,  
 $\text{ZnSO}_4$ ,

(b) K-Ferri-cyanate, K-Ferro-cyanate, Alumen-chromate,  $\text{MnO}_2$ ,

以上のうち(a)群は明かで、(b)群のものは明かではなく、(±)の程度である。

(ii) ビラミドン試験法には酸の少量添加が望ましいが、鉱酸( $\text{HCl}$ ,  $\text{HNO}_3$ ,  $\text{H}_2\text{SO}_4$ )は不適當である。酢酸の添加は呈色の邪魔にならない。止むを得ず  $\text{HCl}$  を使用する場合溶液の酸度 PH 4.2以下の際は呈色してもその成績は疑わしい。

(ii) 以上と反対に PH 5.6 以上となる場合も注意を要す。色素が実存しても呈色反応が陰性に終るからである。

(iii) ビラミドンの溶媒が無水酢酸である場合にも色素に対して特異な色彩を呈するが、この場合においても Cr 化合物、CO 化合物、Cu 化合物は色素同様呈色して来る。

<—————★—————>

文 献

- (1) 児玉栄一郎：秋田県衛生研究所報、第1輯、昭和29年度
- (2) 児玉栄一郎：秋田県衛生研究所報、第2輯、昭和30年度

編 集 後 記

本年はいろいろな事情が錯綜して所報の編輯も思うように進捗しなかつたので、普通ならば4月末にはできものが5月漸く編輯が終えたということになってまことに申訳ないこととどお恕しをひたすら願う次第である。年間の業務を展望することができ、また足りないところに気がつくことは苦しいが、皆様のお叱りと激励の言葉を戴くことは更に嬉しい。

衛生研究所の仕事などは全く縁の下の礎石のようなも

ので、じみであり、映えないものであるが、それでいて公衆衛生の基本を受け持ち、またひとりびとりの健康と治療につらなることであるから責任は重大である。褒められることまで望む訳ではないがせめて法律の基礎の上に立って歩むことができれば、困難な事柄と取組む根気も湧いて来るのではないかと思うし、文化国家として自負も生じて来るものではないかと思う次第である。この欄を借りて日夜業務に営む所員並びに関係各位に深謝すると同時に今後も御支援の程を重ねて希う次第である。

(児玉記)